



樹里安だより

ジュリアン

2010年3月
Vol. 27



伝統ある植木の里
～川口安行～ 第70回
春の大花植木まつり
・一輪草まつり



— 安行の名所 (その14) —

木曽呂の富士塚

国指定・重要有形民俗文化財 《川口市大字東内野594》

富士信仰が盛んだった江戸時代、富士山に行けない人のためにもご利益があるようにと富士山を模して築造されたのが富士塚だ。安永9年(1780)江戸で最初に造られたのがきっかけで、木曽呂の富士塚はそれより20年後の寛政時代12年(1800)に富士講の一派の丸参講によって築造された。塚の高さ4.5m、直径20m。山頂には「お鉢めぐり」のできる直径2.5mの火口や、塚を貫いて胎内くぐりも設けられていた。今では、火口も胎内も埋没して荒れはててしまったが、周囲には築造の由来が刻まれた石碑や石鳥居、石灯籠などの石造建物も多く残っており、昭和55年4月、国指定の重要有形民俗文化財となった。

近年、富士講も廃れ信仰で訪れる人もいなくなったが、県内では最も古い富士塚で、庶民信仰の歴史を知るうえで貴重な存在だ。

平成18年2月14日には、皇太子殿下が行啓され、記念樹みずめ(梓)が植えられている。

安行領家の **ケヤキ**

(川口市安行領家)

川口市安行領家を通る県道吉場安行東京線の道路沿いにそびえる、この地域では一番の巨木だ。以前は、道路よりやや奥まった畑地に根を下ろしていたが、歩道設置のため道路が拡幅され、今は幹の根元すれすれまで舗装された歩道となり、窮屈そうだ。だが、西サイドと裏側にある常緑のシイの木や背の低いケヤキなどに囲まれて小さな林を形成、その親分格として安行台地を見下ろしている。

この木の生い立ちは、木の所有者の宇田川家でも定かではない。自然に生えたものか誰かが植栽したものかは不明だが、胴回りが3mを越える幹の樹皮は鱗片となって、はげ、コケがびっしりついていることなどから、樹齢は100年を越える老木と見られている。

これだけの巨木を所有していると宇田川さんの気苦労も絶えない。昔は、庭木・苗木畑が広がり、民家もまばらだったこの地域にも開発の波が押し寄せ、住宅・アパートが建ち並んできた。風雨の強いときは、枝葉が折れて落ちたり、秋には落ち葉が住まいにまで舞い込み迷惑をかけたりしないかと、毎日のように掃除に精出す。特にこの木の近くにバス停があり、バス待ちの人たちがタバコの吸い殻で木が燃えたりしないか気が安まらないそうだ。

だが、「この木を厄介者だと思ったことは一度もありません」と宇田川さんに家族はきっぱり言う。早春の萌黄色の芽生えの美しさ、やがて新緑、深緑へと姿を変え、夏には梢で浄化した涼風が吹き抜け、見る人の心身を癒してくれる。

「地球温暖化問題などで緑の重要性が見直されていることもあり、この木も再認識され地域のシンボリックな存在となってきています。わが家の誇りとして子孫に残していけるよう大切に守っていきたい」と温かいまなざしで毎日のように巨木を見守っている。



ケヤキ *Zelkova serrata* Makino ニレ科ケヤキ属

- 別名 ツキ
- 分布 本州、四国、九州、台湾、朝鮮、中国
- 高さ 30m 幹周り3～6mぐらいになる落葉広葉高木
- 用途 公園樹 街路樹 屋敷林 神社境内など
- 陽樹
- 4月～5月に開花 生長はやや速い 萌芽力は大 強剪定に耐える
耐風力が強い 移植は容易 大気汚染、潮風、乾燥に弱い
- 樹冠は円形状 葉は互生し、長さ2～7cmの卵形または卵状披針形、雌雄同株
果実は長さ4～5mmの平たいゆがんだ球形で10月頃に黒褐色に熟す



安行領家の保存樹木

樹種	科名	指定年月日	指定番号	所在	幹周	樹高
ケヤキ	ニレ科	H12.9.1	53	安行領家	3.2m	22.0m



日本の食文化を支える埼玉県特産の

サンショウ

日本の料理には欠かすことのできないサンショウの若葉。「木の芽」といわれ、香り高く緑鮮やかな若葉には、料理のつま、吸い物、添え物、つくだになど、料理のあしらいとして使われているが、その産地が川口市だということをご存じですか。同市、木曽呂・神戸などを含めた見沼地域では、「軟化栽培」の技術を生かして周年栽培し、埼玉県の特産品として東京市場に出荷している。

サンショウは、本州、九州、四国、北海道、南朝鮮に分布する高さ、3～5mの落葉低木。多くは山中に自生するが、畑や庭にも植えられ、日本古来の香辛料として、また回虫駆除薬として、すでに奈良時代には使われていたという。植木の里安行でも、古くから新緑の季節に若葉を採取し出荷してきたが、周年栽培により産地化を図ろうと、昭和40年頃、先進地の愛知県から周年栽培の技術を導入し、本格生産に乗り出した。軟化栽培による周年生産とは、種子から10cm前後に伸びた苗木を万の単位で育てたあと、冷蔵施設で、冬眠させ、そのつど、必要量だけ取り出して遮光を施したハウスなどに植えて発芽させ、新葉が2－3cm展開したとき摘み取って出荷する方法。

軟化栽培が軌道に乗ったことから、やがて40余の生産農家が集まって武州軟化蔬菜出荷組合が設立され、東京市場に向けて安定した周年の共同出荷が可能となり、生産地としての地位を確立することができた。

同市木曽呂の生産農家をのぞいてみると、うす暗いハウスの中で柔らかくて繊細な若葉を摘み取ったあと、ピンセットを使って小箱にていねいに詰めるという細心の注意と根気のいる作業が行われていた。

サンショウは、若葉のほか、花、果実、皮なども、つくだに、漬物、香料などに用いられており。日本の食文化の“名脇役”といったところだが、「川口緑化センター・樹里安」では安行寒桜、柚子に加えて山椒の葉を利用した3種類の“樹里安アイス”を特産品として開発した。新しい分野への進出であり木の芽だけでなく緑化産業全体の振興を図っていく。



木曽呂・神戸エリア

サンショウの利用

若葉

懐石の彩り、筍ご飯・
ちらし寿司など春の
料理の香り付け
彩り付け
佃煮



花

料理の吸い口



熟した果実の 乾燥粉末

鰻の蒲焼きの臭み消し、
味噌汁の香り付け
五平餅の甘辛たれ、
スナック菓子



木

すりこ木



サンショウ

Zanthoxylum. piperitum ミカン科サンショウ属

- 別名 ハジカミ
- 英名 Japanese Pepper
- 東アジア原産
- 高さ 3m～5m 落葉広葉低木
- 用途 薬用・食用など

- 雌雄異株
- 花は黄緑色で4月～5月に開花
果実は長さ～5mm程度で10月頃に赤色に熟す
葉は互生で奇数羽状複葉。長さは10cm～15cm
枝には棘がつく

誕生祝い

ナンテン

メギ科 ナンテン属
(常緑広葉樹・低木・中庸樹～陰樹)



ナンテンは名前が「難を転ずる」に通じるので、縁起がよいものとされ、あらゆる祝い事や願いごとに用いられてきた。子供の誕生には赤飯を炊き、ナンテンの葉を添えて祝い、そして食い初めにはナンテンの箸を用いる。白い雪の中で真紅の実をつける、けなげな姿から、わが子が幸せでたくましく育つことを願うにふさわしい。。

1. 特徴

開花期 6月、結実期 11～2月。白い実をつけるシロミナンテンなどもある。

2. 植えるときの注意

時期 3～4月・10～11月

場所 西日の当たらない場所がよい。乾燥は禁物。植える前に堆肥や腐葉土を与える。

3. 管理のポイント

比較的丈夫で病中害は少ない。

《他の木》



マツ

常緑針葉樹
高木・陽樹



クス

常緑広葉樹
高木・陽樹



キリ

落葉広葉樹
高木・陽樹



ムラサキシキブ

落葉広葉樹
低木・中陽樹

参考：日本緑化センター 木を植えよう 記念樹にふさわしい木とそのいわれ



川口緑化センターの主なイベント結果報告

1 第7回緑の学会・ふれあい講演会

平成22年1月31日(日)

俳優の永島敏行氏を迎え、「川口安行発! たべもの花・植木一直線」～これからの食・農・緑～という演題で農業や生産者と消費者を結びつけるプロデューサーの役割について講演していただきました。参加者の都市農業の知識向上が図られました。



2 小型移動式クレーン運転技能研修会

平成22年2月26日(金)～28日(日)

造園業の資質向上と、小型移動式クレーン運転作業等における労働安全知識向上と災害防止のため労働安全衛生法に基づく研修会を開催しました。



3 植木業界活性化研修会

平成22年2月26日(金)

安行の緑化業者3名が、これからの植木業界の活性化についてパネルディスカッション形式で海外との取引や種苗登録の重要性についてそれぞれ見解を示しました。地元緑化業界の活性化が図られました。



4 第49回川口市花の文化展

平成22年2月26日(金)～28日(日)

川口市特産の花き園芸の総合的な紹介・宣伝を目的として開催しました。市内産のサクラ、ボケなどの枝物の展示とともに、枝物の利用方法を紹介するため生け花が展示され、多くの来場者で賑わいました。



5 種苗登録制度研修会

平成22年3月11日(木)

現代社会において知的財産権の重要性が高まっている中、園芸業界でも「種苗登録制度」が注目されていることから、安行の緑化産業の活性化を目的に開催しました。参加者の種苗登録制度の理解向上が図られました。





● 花の格言・名言集 (その2) ●

[麻の中の蓬^{よもぎ}]

ヨモギのように枝が出て、曲がりやすいものでも、真っ直ぐに伸びるアサの中にまじって育てば、自然に真っ直ぐ成長する。良い友に交われば、特別に教えなくても感化されてよい人になるというたとえ。

[梅にうぐいす]

取り合わせのよいものの表現に使う。竹に虎、柳にツバメ、紅葉に鹿、牡丹に唐獅子、桐に鳳凰など。

[十日の菊、六日の菖蒲]

キクは9月9日の重陽の節句の花、ショウブは5月5日端午の節句の花。手おくれで役に立たないことのたとえ。

[沈黙は清純な恋の花である]

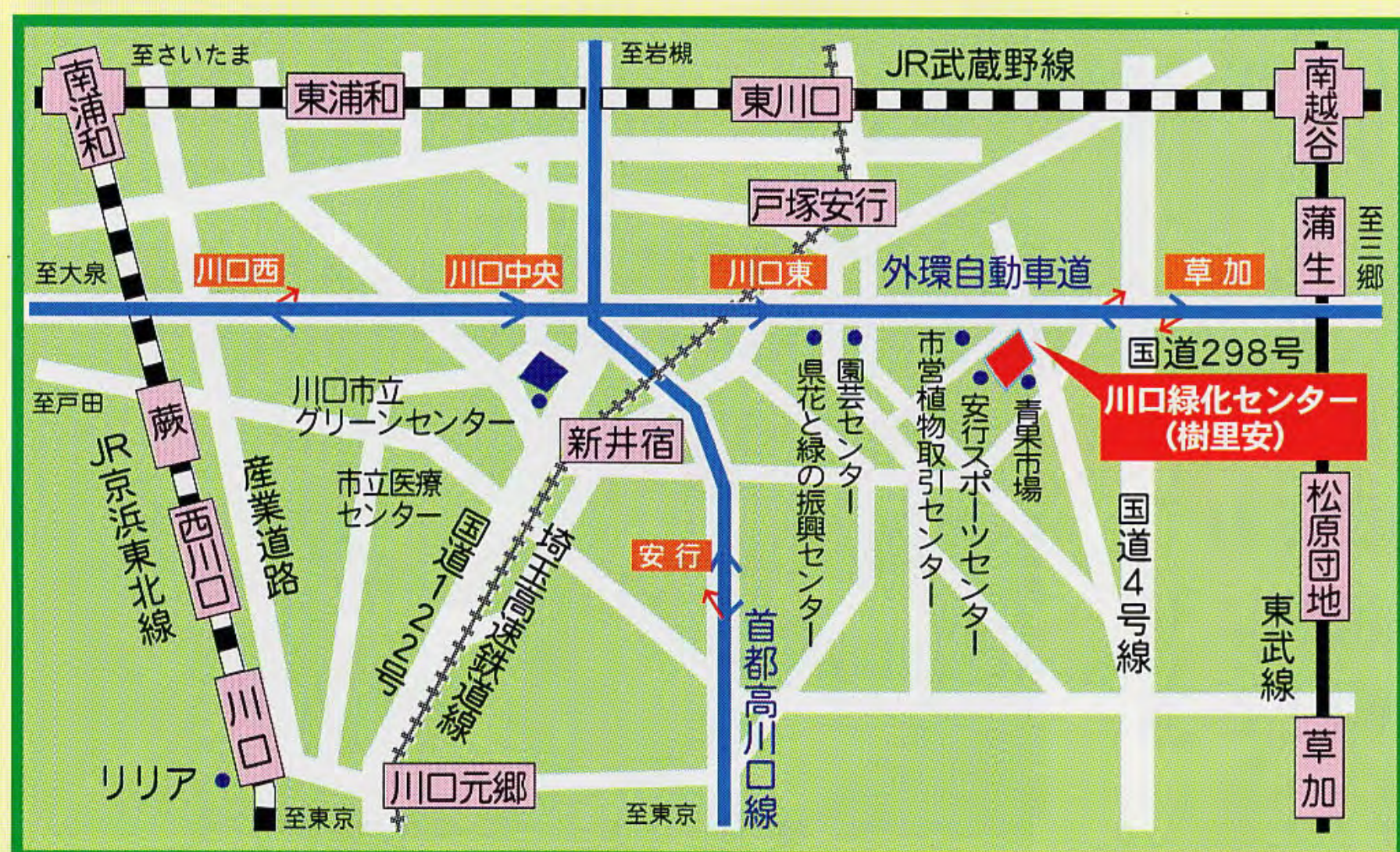
詩人ハイネのことばである。恋人同士が会っても、胸がいっぱいでことばが出ない。そんな初々しさを恋の花と呼んだ。いかにも詩人らしいことばだ。古めかしいようだが、誰にでもこうした青春時代があるのではなかろうか。

[美しいバラは刺^{とげ}の上を開く]

人の世は、けっして悲しいことばかりが続くものではない。悲しみのあとには、必ず喜びがくる。禍福は、まじえ合わせてよる縄のようである。

[オリーブの木は折れ、葦^{あし}はたわむ]

強いものと張り合うよりも、時によっては力に屈する方が得である。柔軟性の必要を説いたイソップ物語の寓語。



ジュリアン

樹里安

川口緑化センター・道の駅「川口・あんぎょう」

発行日：平成22年3月20日
発行：財団法人 川口緑化センター
〒334-0058 川口市安行領家844-2
TEL 048-296-4021
ホームページ：<http://www.jurian.or.jp>

KAWAGUCHI
きりり川口
緑いっぱい